



会長 小井田和哉 青少年奉仕 石橋 信雄
副会長 村井 達 幹事 深澤 隆
クラブ奉仕 小林 幹夫 会計 渡辺 孝
会長エレクト 佐々木泰宏 会場監督 接待 一雄
職業奉仕 橋本八右衛門 直前会長 道尻 誠助
社会奉仕 妻神 和憲 副幹事 正部家光彦
国際奉仕 妻神 和憲 会計補佐 紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を!

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

3月 は 水 と 衛 生 月 間 です

第3217回例会 2022.2.16

▶ゲスト 八戸市教育委員会 教育指導課
副参事 石澤 陽さん
主任指導主事 石田 純也さん

触者でないから大丈夫だという話で、きょうから会社に出てきて、お子さんは学校に行った。ちょっといろいろ混乱してきているようです。

こういうことがだんだん増えてくると、皆さんの会社もなかなか社員が出社できないということもあるのではと危惧しています。

会長要件 小井田和哉 会長



新型コロナはなかなか収まりません。夜の会食よりは、今現在は学校のクラスターが増えてしまってきているのかなと感じます。わたしの会社の社員の子どももクラスで感染者が出たということで濃厚接触者となり、家で一緒に暮らしている親も一緒に濃厚接触者になってしまうらしいです。PCR検査を受けて、お子さんは陽性で親は陰性だった。だから会社に出てこられるかというそうではなく、しばらくは会社を休まなければいけない。

昨日はきのうで、お子さんのクラスに濃厚接触者の疑いが強い子どもさんが出たということで、親に迎えにきてと言われて迎えにいった、しばらく休まなければいけないかなと思ったら、まだ濃厚接触者の疑いで濃厚接

幹事報告 深澤 隆 幹事



• 例会後に理事役員会があります。そこで、来月以降の例会の開催の仕方、プログラムなどを検討しますので、決まり次第皆様にお知らせします。出欠の確認のご連絡をよろしくお願ひします。
• 八戸市のコロナの感染状況で一番特記すべきなのは、300人の感染者が出たとき、自宅療養者のことだけですが、そのうち19才以下は200人と2/3以上が未成年者です。例会場でも感染者を出すことなく、クラスターを発生することなくいきたいと思いますので、引き続き感染対策をよろしくお願ひします。

委員会報告



親睦・会場委員会

夏川戸 斉会場委員長

- ・誕生祝 荒谷達也さん
- ・奥様誕生祝 接待一雄
松本剛典・植草 務さん

夏川戸 斉さん 教育委員会では、学校でのコロナで大変と思いますが頑張ってください。

橋本八右衛門さん 来年こそはワンカップ飲みながらのかがり火えんぶりは最高です。

小井田和哉・山村和芳・中村稔彦
廣岡徹也・赤澤栄治・廣田 茂
小林幹夫・山田慶次・熊谷清一さん } ニコニコデー



「コロナ禍における小・中学校の不登校等の状況について」



八戸市教育委員会 教育指導課
副参事 石澤 陽さん

「コロナ禍における小・中学校の不登校等の状況について」ということで、わたしからは不登校の定義は何なのか、国が調査した結果の数値、国は不登校のところをどう見ているのかをお話したいと思います。

長期欠席者はいわゆる年度間に、4月～3月に30日以上登校しなかった児童・生徒を理由別に国が調査しています。その理由別というものは5つあります。①病気で30日以上休んだ。②経済的理由で30日以上休んだ。きょう話題にする③不登校という括り。④令和2年度から新型コロナウイルスの感染回避のために休んだ。⑤その他 の5つに分類しています。

長期欠席者はいわゆる年度間に、4月～3月に30日以上登校しなかった児童・生徒を理由別に国が調査しています。その理由別というものは5つあります。①病気で30日以上休んだ。②経済的理由で30日以上休んだ。きょう話題にする③不登校という括り。④令和2年度から新型コロナウイルスの感染回避のために休んだ。⑤その他 の5つに分類しています。

その中の③不登校というのは子どもたちが何らかの心理的、情意的、身体的あるいは社会的要因、背景により登校しない、あるいは子どもたちが登校したくない状況にあるものを「不登校」ととらえて調査しています。

⑤その他はア) 保護者の教育に関する考え方……。イ) 外国での長期滞在、ウ) 連絡先が不明なまま長期欠席、エ) 病気・経済的理由そして不登校の理由により登校しなかった日数の合計が30日は経っていないが、学校教育法に従った忌引きや出席停止を加えると30日を超えた。オ) その他。

きょうは「不登校」についてお話したいと

思います。不登校の現状について、令和2年度の本県と全国の1000人当たりの不登校の数値を出したものです。令和2年度の国の調査を集計して、秋口に公開した数値です。小学校と中学校に分けていて、平成30年、令和元年、令和2年と数値を並べています。ご覧の通り、本県は小学校、中学校とも全国全て少しづつ数が増えているのがわかるかと思えます。全国と比べれば本県の数値はじゃっかん低いというとらえができるかと思えます。これをそのままグラフ化するとこのようになり、下の2本は小学校、太いほうは本県。上の2本は中学校です。小学校はこの3年間で1000人当たりの数値がどんどん上がっているとみえます。この辺りがコロナ禍における状況がこの不登校にも起因しているのではないかと読み取れるかと思えます。

不登校の増加について、文科省ではこのように言っています。全国調査において小・中学校における不登校児童生徒数は196,127人。前年度は181,000人であり、前年度から14,855人、8.2%増加しました。不登校児童生徒数が8年連続で増加し、55%の不登校児童生徒が90日以上欠席しているなど憂慮すべき状況にある。児童生徒の休養の必要性を明示した義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の趣旨の浸透の側面も考えられるが、この2年間で生活環境、生活リズムが乱れやすい状況や学校生活においてさまざまな制限がある中で、

交友関係を築くことなど、登校する意欲がわきにくい状況にあったこと等も背景として考えられる、としています。先ほどグラフで示した本県、全国、八戸市も同じような傾向、ここ3年間で増加傾向にあります。



主任指導主事 石田 純也さん

学校ではこのように「学校教育指導方針と重点」という目標を作ります。毎年毎年見直していっているところですが、その中に“あらゆる状況を踏まえて”というところに、不登校も当市の課題としてとらえて取り組んでいます。その中に「魅力ある学校づくり」というのを入れました。

- ① 授業をおもしろくしよう
- ② 先生たちを含めた大人、もちろんこちらにいらっしゃる皆さんも含めてですが、子どもたちの居場所をつくろう
- ③ 子どもたちが安心すれば絆を作っているだろう。

この3つを柱にして何とか明日も来れるなどという学校を作っていこうという話です。

まずは授業における居場所作りで進めていきます。子どもたちは毎日のように授業を行っています。1時間目から6時間目まで。その中で居場所がないと学校に行きたくないと思うのは当たり前だと思います。国の調査によると学校に行きたくないと思う理由としては勉強と人間関係の2つが主だと言われています。だからこれが苦手だともう、学校は行きたくないという建物になってしまう。

まずはいろんな子どもたちを見ながら、先生が主になって進めていく。いろいろ出ている子どもたちは、実はその陰でいじめられているからちょっと動いてみたり。寝てしまっている子どもたちは家で勉強しなさいと怒られていたりとか、だからそういうことを先生たちはちゃんと把握してね。ただ立って歩くから怒る、叱るとするのはダメだよ。というところで、わたしたちは学校に対して話をしています。ちゃんと子どもたちの後ろにあるものを、背景を見てください。

例えば学級という括りを見ると、勉強ができなくて困っている子であったり、リーダー的な子、ハイ先生と言える子、まったくやる気のない子、何も言わないでその日一日を過ごす子など、こういう形で学級の中はわかれていきます。ある調査で授業に主体的に取り組んでいますか？という調査をしたところ、取り組んでいるのは27%の子ども。どっちかというともあ当てはまるというのは51%、18%はどちらかという当てはまらない。4%はまったく自分でやる気が出ない。

そうすると、ここに着目して27%はリーダーなんだな。18%は特定の子、4%はすごく支援しなければいけない子なんだというのが学級の中にいる。だけれど、51%の子どもたちを忘れてはいけないよと学校には伝えていきます。こういう構成を学校が頭に入れて、ちゃんとこの集団を見ているかが集団作りのポイントになります。

魅力ある学校づくりはということなんでしょう。手のかかる、手のかからないで、先生と1対1で話ができる18%、4%、27%の子どもたちだけと学校は話していると、気づかないうちに51%の子たちは実は授業ができなかった。学校がおもしろくなかった。先生が気づかなかった。そうなればどんどん不登校は雪だるまのように増えていく。この51%を含めたすべての子どもたちにしっかり授業をやっけていこうという視点をもっていきましょう、ということ伝えていきます。

授業を進めていくなかで、やはりどうしても勉強がわからないという子たちが出てきます。そうするとこの授業から外れるのかというとこれもまた不登校になりえます。そうではなく、この手立てを授業の中で先生たちは工夫しなさいと伝えていきます。子どもたちの得意な分野に目を向けてもらう。例えば、勉強は嫌いだけど発表が得意な子には発表が得意な場面を与える。運動が好きな子は授業の中でちょっと動かしてみる。パソコンが得意な子はそのパソコンを使わせてみるなど、活躍の場をちゃんと作って欲しいと言っています。

そして安全で安心で授業の中で居場所がで

きてくると、子どもたちは絆づくりに進みます。子どもたちは居場所があると絆づくりに進んだときはもうしめたものです。自分の学校は自分で作るぞって思った瞬間に、子どもたちは学校に対して足が向きます。そして自分は誰かに待たれているな、〇〇委員会をやらなきゃ、〇〇活動をしなきゃと自分たちで走れるようになったときには少しずつ不登校が減ってくるのかな。それを進めているのが八戸市教育委員会の「魅力ある学校づくり」です。

国の調査で、コロナ禍において子どもたちの心はどう変わっているのかを、いろんなアンケートをまとめてみたものです。コロナ禍で子どもたちの精神状態、健康状態が低下している。特に中学生、高校生への影響が強い。親に中程度の心理的健康上の問題がある場合、子どもの健康上の問題が増加する。要するにちょっと親が悩み気味の家庭は子どもに影響が出ている。なので、子どもだけをみるのではなく、親とも話をしていかなければならない。

スクリーンタイムが増えています。パソコンを見る時間、ゲームをする時間、家にいる時間。もちろん教育委員会でも1人1台端末を渡しているので、致し方ない部分もありますが、やはり人と触れ合うよりマシーンと触れ合う時間が多くなっています。ただ、そうかと思って子どもたちの様子を見てみると、向社会的行動は増加している。誰かのために何かをしたいという心は子どもたちはある、ということが分かります。

親子の時間が増えたから肯定的ないい時間も増えたのですが、これがわれわれのところにもよく報告が入ります。親が子を叩く虐待

のようなものも増えている。距離が近くなればいい関係もあるけれど、苦しい関係も出てきている、というのがこのアンケートでわかります。児童虐待が増加している。また自殺者も増えている。しかも10代、20代の若年層、特に高校生の女子生徒において、それが顕著に見られます。

また、家庭に及んだ影響では親の健康状態が子どもに大きく与えている。親の勤務形態が子どもに大きな影響を与えている。要するに親の仕事が変わった。仕事がなくなった。時間帯が変わったなどは子どもに大きく影響しているということがわかります。なので、国のほうでは長い休みには運動をしたり、楽しいテレビを見たり、読書をしたりするのを勧めましょう。子どもたちの心を健康にするために推奨しています。

わたしは体育の教師をしていましたが、わたし自身、ちょっと古いのかもかもしれませんが、あまりパソコンだけにとらわれたくないという思いもあります。確かにすごく便利でいいんですが、人とつながる力、非認知能力、要するにテストで100点を取ったというのは目に見える認知能力ですが、そうではない思いやり。挨拶ができるなどのところを育てなければいけないのではないのか。学校の先生たちもお話しています。テストで100点取ったからAだではなく、それは見ればわかるのだから、そこじゃないところをちゃんと育てないと子どもたちは育っていかない。そういうところをパソコンの時代だからこそ育てていかなければいけない、と思っています。

出 席 報 告					出席委員会						
第3217回例会（2月16日）			第3215回例会（2月2日）								
出席率		75.8%	出席率		74.2%	修正出席率	74.2%				
総会員数		62名	出席数		47名	総会員数		62名	メイクアップした人数		0名
出席義務会員	62名	出席免除会員	2名	欠席数	15名	出席義務会員	62名	出席免除会員	2名	欠席数	16名